第１回福井城山里口御門復元考証専門委員会議事要旨

日　時　　平成２５年８月１日（木）１０：３０～１２：００

場　所　　福井県庁３階　第２委員会室

①石垣について

・石垣の上に塀を設ける、あるいは坤櫓を復元するとなってくると、石垣の耐力が問題になる。構造的な面の調査もこれから進めるべき。

・上部の構造をどうするか、将来の塀や櫓の復元等の計画の中で石垣の積み直しを考えねばならない。見てくれが悪いだけで積み直しということにはならないのではないか。

・他所の事例では、櫓等を建てる時は石垣の上を少し漉き取って、地盤改良した所に荷重をかける。しかし、地震の時に石垣だけ崩れる可能性もある。石垣がアーチ状になっているのに荷重がかからないということは、地震には非常に弱いはずで、そこだけ壊れる可能性がないとはいえない。

②埋蔵文化財調査について

・両側の石垣についている跡の、柱受けという呼び方を丁寧に、石垣添え柱もしくは添え柱跡と言った方が良い。

・他所でも同じ跡に対する名前を使っているはずなので、確認すべき。

③基本設計

・御廊下橋は復元の際に少し地盤面を上げている。また、県庁側も御門の地盤の高さと現在の地盤の高さとの差が大きい。今回、復元する御門と周辺の地盤の高さの関係をうまく解決する必要がある。

・出てきた遺構の位置を変えた例はないので、そのままの位置で復元し、高低差はその周辺でなんとか処理しなくてはいけない。

・今回掘って出てきた排水側溝の天端から、元の地盤まで６０～７０センチの段差の解消が問題となる。

④名称について

・冠木門は文献資料からそう書いてあるということか。冠木門というのは正式には屋根のない形のものであり、形態が異なる。

・名称を使っていく際、他の門も合わせて、福井城での呼び方をはっきりと整理すべき。復元にあたってはこの名前を使うと決めて使わないと、後で報告書を読んだ人が混乱する。

・山里口御門という名称も、埋御門、廊下橋御門、天守臺下門と様々に呼ばれた。
・復元するのだから、名称の根拠をしっかり示しておく必要がある。
・山里口御門として走っているので、これを変えるのは大変なことではある。
・名称については、事務局で整理すること。

⑤中央公園周辺再整備について

・第１期と第２期の整備時期がかなりずれると、中途半端な状態の公園が残る。プロポーザルを一体として実施しているのであれば、全体を一気に整備すべき。できるだけ第２期整備も引き続いて行われるようにお願いしたい。